

### 3. リレーうちどくの現状と効果

#### 「リレーうちどく」は今？

「うちどく」の取組は、親(家族)と子どもが本について語り合うことで、親子の思いを交流するところから始まりました。まず小学校で取組が行われ、幼稚園・保育園へと広がっています。その取組の代表的な方法として「リレーうちどく」に取り組んでいるところが半数以上もありました。そこで、小学校へアンケートで調査を行いましたので、その結果から見えてきたものを紹介します。

#### 1. どのように実施されているのでしょうか

- 全学年で取り組まれている学校がほとんどですが、低学年から始めて中学年へと段階を追って対象を広げている学校もあります。
- 使われている絵本は学校図書館の本が多いですが、市民図書館の団体貸出を活用したり、PTA（育友会）と連携し、財源を確保したりして用意するところもあります。また、地域のまちづくり協議会などから支援を受けて、本を購入している学校もあります。
- 取組の主体は学校がほとんどですが、PTA（育友会）や読み語りボランティアが中心となっているところもあります。
- 絵本とバック、感想を書くノート（用紙・記録票など）がセットで用意されています。

#### 2. どのような工夫がされているのでしょうか

- 発達段階に応じた選書。
- 感想やコメントなどは簡単に書けるように。
- クラスをグループに分けて、1週間以内に次に回す。
- 感想はお便りで全家庭に配布。

- ・PTA（育友会）で、アンケートをとり学校の広報誌に掲載。
- ・学校での家読フォトコンテストの実施。

**その他、学校や地域の実情に合わせた様々な工夫があるようです。**

### 3. 先生の声

- ・1冊の本の感想を共有できるところがよい。
- ・親子のふれあいの機会となっている。
- ・家庭で読書の習慣をつけることに寄与している。
- ・子ども達、保護者の方々がいろいろな感想を書いてくださり、読むのが楽しみ。
- ・スムーズに回覧できる家庭とそうでない家庭の差がある。

### 4. 課題と展開

- ・家庭環境に配慮した選書。
- ・なるべく多くの家庭に本が回る工夫。
- ・なかなか本を回収できない家庭へのサポート。
- ・リレーうちどくの期間しか家読をしない家庭もあり、全家庭に浸透させるかが課題。
- ・PTA（育友会）との連携を深め、家庭への啓発を進めていくことが重要。

**■学校やPTA(育友会)の集まりなど、いろいろな場で話題にし、交流しながら、それぞれの学校や園、地域に応じた取組を工夫してみましよう。**